



園花
日本居家秘用 一

<p>飲食 飲食の建中うんたの建中うんた の建中うんたの建中うんた 何よりいん食物の建中 やういんたの建中うんた</p>	<p>衣服 衣服の建中うんたの建中うんた の建中うんたの建中うんた 何よりいん食物の建中 やういんたの建中うんた</p>	<p>蓄財 蓄財の建中うんたの建中うんた の建中うんたの建中うんた 何よりいん食物の建中 やういんたの建中うんた</p>	<p>室屋 室屋の建中うんたの建中うんた の建中うんたの建中うんた 何よりいん食物の建中 やういんたの建中うんた</p>
--	--	--	--

目録一

3370
1



居家秘用序

嘗聞居巢者知天風居
穴者知天雨然知風知
雨者徒知其一而不知
其二居家者非特知其
一蓋無所不知之然人
非生而知之者故從師
學之讀書知之而至其
極則推因革於百世之
後謀勝敗於千里之外
故曰人萬物之靈也一

居家秘用序

日書林袖錄稿來求余
以其名余披而讀之則
居家日用之書而知風
知雨之事亦在其中焉
此作也中華雖嘗有之
而本邦未聞有之請
名之以秘字乎書林曰
世俗之書未足以為秘
焉余曰史有之曰神君
所語每絕殊者而漢武
獨喜其事秘世莫知也

惡夫不可秘者且嘗秘
之而况可秘者乎遂題
居家秘用云

享保十六年辛亥二月
上浣可親軒主人題



居家秘用序

門ヲ8
號 3370
卷 1

昭和十六年
四月八日
購求

日本居家秘用卷一目錄

○室屋

け部へん家の建てる屋の建てる
やう井のりやう小池のたけ
りやう板木釘等乃用ひやう
りやうちまぐり人乃居
室ふかりて益のりまゝに
妻細ふまゝに

○黒敷

け部へん道具の換へるに
はくしひやう膝のりやう
道具の細工乃仕やゝあとの
道具乃びざらに

常小念物成らるる益
限事成るハ一くまらる

○室屋

▲居ハ氣成移まといつゝ家

ハ常小我身成れく不るハ

質素小一て又醜成好じ

るわくは去れん成生じら

ば小害成さる

▲家ハ高くはくろるわくは風

りくろく家乃くは事

一床ハ高くして下より煙

氣乃阿がさるやうふ止る

心常小湯之知依うくちやうふ
しんじやう

▲家代高く遠まは湯盛小

しつて明おほしひまはくれ

ハ陰盛少しと暗おほし明

れは多まは人乃魂依やう

暗はは多まは人乃魂依や

がらん乃魂ハ湯あしと魂は

陰なるしと明暗あやがし

湯く時ハ疾病れうの志うまは

明暗年なるやうふ家代依

けうくが 居家必備

▲れよとまづ居るなり家ハ四通

ふみか空りな依うしと依は

少あはふと依は止に空く座

ちて小明なまはげ差依おろ

し大小暗多まはる差依まろ

かくのごとくなまはる内しは依

安し外しは目依安んじん

月皆安るまは身安し 同上

▲人家不可多種芭蕉久而

招崇 同上

▲住宅四畔作木音翠進
財同上

▲桑乃木紙屋本とともなる
以死樹採恐とをまじうに上

▲竹根おほく庭乃邊ふいで
害とたふるまは卑角刺紙れ

ほく葉めく去中小担めはま
ざら又他麻棟紙小把と句

うづむととと 同上
▲家紙造り時戸障子あつひ

戸棚木の物ハラの家くもえ
求むる一六五ふはらう一むれ

漢紙費一て益まらぬ
▲定知くふ一二ととと取宝或ハ

世のく物物帳面乃類うの外
も好れぬり物火災の時ん

なく去之紙入室なる一紙
ふころへ紙へ退る

▲寛ふふれ可れ紙の三年
まつりふとわりまらぬ一紙

新しきもど夜灯紙紙
完し又紙ははれく

水去ぐ一丈汲りやまふ事
あり

▲井汲り法 夜氣晴明ある
時井汲りしとさふ過ふい
くめと鳥物ふ水汲入るあ
る金いづも乃鳥物乃水小早
乃光もつとと大あく明あ
どく尺くうの五汲あまは
おれいづも水汲りくと之
若給ふ事あり

○又法地よ鳥乃お汲る
桶乃類汲れぬひく一夜全
てころらふ水多た地よ
おふ鳥あははくうじとい
り

▲井乃水早朝一番ふ汲る
井草水といふむう一又時ふ
うに新ふ汲る汲新汲水
とよとく一とくたぐり
くうに用也るうに

▲小池汲造り法 竹の枝を
もくく池に挿しうく竹葉

炭燻く乾くまで一久しく
たゆり又魚之紙をよすれ
こころ毒知るころ炭すし
但魚之紙をよす池中小壺に
いけとまらる

▲梅の水燻ふ塩の日向より出
ぬそのむし赤く紙をよす
炭すし一土依乃炭ハ久白
けく日向ふたより

▲松紙屋材ふまらる煙乃
りあふ用の中へ煙をた

あふ用の中へよく行な

▲吐土乃法 碎砕石灰石各

油塩各之合 海苔汁汁五合或ハ

松脂脂紙紙外外右いづれと一一

小壺壺入入めれしむ初ハ初こふ
次身身ふははくく持持ぎ

●又法 石灰灰八升塩四升

土一斗右水水おお入入たたののどどく
はくはくく塩ハ七七八八升升をを入入まま
ハハれれよよし

▲老人乃居居不不主主凡凡圖圖乃乃作作り

水缸樽子等一器同より多
ハ年考て凡使りく構つ
るどふほろを通ふ使り
よれやふもど

▲樋付品一より用中
本ハ樋極低よ一とされ
沢とハ樋ハ内乃方低
よめりて一とされ

▲家ハ二階瓦高くも一
々を凡器陶一と一又
天井板古は低用中と

必けしつて一樋
陶とれとみなり

▲家乃地面ハ水と低高く
ぐ一と一と一と樋
高配水と一と一と水
と一と一と樋平地
のて下でれと一と一と
とあり

▲柱ハ角低用中一
と一と一と一と一と
り用柱ハ一と一と一と

板のたふさく

△や福小主瓦は世よりよく

の年瓦は用也

是也一三年ふ一

べ玉骨組よく

よれ山古瓦乃下ふ

年ふ何紋所

程ふ針紙

事れ

△煙出ハ八金

一尺

く思

棟ハ高ゆ

株高ク

△床乃大引

ゆるとと

百屋紙

△湯の風

通り紙

△水

八思

▲窓ハ向窓よし一尺在乃明
ハリ

▲井ノ水ヲくたれ土地柔くあり

不ハ山くづき密くありやう多

しうの場不極ふを死不あり

ハカとぐひ紙紙くは紙紙ひを

西乃法道具をこゝろ除け

西田の極く長紙紙用也

▲井筒ハ木火用へ一つよし火

考へる火用也なうは石を

はくうよりハ右紙紙換ドハ

黒物ろふうま換と

▲天井乃の紙板小は紙紙つ

くくせん とも糖まてくくく

が

▲板又ハ板小は紙紙行のよハ

紙紙乃糖紙紙まてくく

が

▲柱小用也ハ板木ハ去依捨

むし尾乃紙本曾九捨紙

紙と紙日向依法系乃肥紙
同柵乃柵又ハ一墩松乃柵

紙用也うすり紙し用り紙し用り紙し用り

粉こなヤしく又また蟹かに紙し用り

▲すすこハハ聖せいふふままぎぎりり紙し用り

りりくくハハ古こ繩じゆ紙し用り細こま切きとと

ややりりぎぎハハ東とう中ちゆうりりとと

▲釘 十じゆ本ほん物もの 長なが三さん寸すん板いた十じゆ

大だい一いち連れん 長なが三さん寸すん板いた十じゆ

二に連れん 長なが二に寸すん板いた十じゆ

四し連れん 長なが一いち寸すん板いた十じゆ

六ろく連れん 長なが四し寸すん板いた十じゆ

● 借かりり紙し用り板いた二に枚まい紙し用り

て一いち枚まいととししりり釘くわなりなり頭あたまききハ

麻あ板いたふふちちくく紙し用り何なにららもも

原はらふふととらら又また襖あは子こ乃なりちち

紙し用りふふししかかくれくれここちちりり

何なにらら釘くわ紙し用り紙し用り

ハハココ紙し用り

▲町まち屋や乃なり廁せ外がわよりより内うちへへ志しこ

ここハハ内うちよりより厚あつ紙し用り紙し用り

紙し用り紙し用り紙し用り紙し用り

▲紙し用り紙し用り紙し用り紙し用り

紙し用り紙し用り紙し用り紙し用り

ちこり候入るしこり候はる
 大風乃時おけいご、併たふ
 候し、このちり二三人かうこ
 たるをうりたる大風よるに
 ▲家云、建つたおまの家の
 小こころしよまの櫻枝さるひ
 大より一、煮けはりし繩ふ
 てり、釜、木の邊ふか、一、さ
 ぐり、そのお節ふのどまてか
 てる、本、候、用、の、か、ハ、甚、悪、一
 ▲量、の、若、伎、好、り、お、る、は

出乃粉、りりし粉、減、さ、り、た、て
 好湯、候、お、く、さ、く、る、り、し、若
 何、く、なる、水、を、そ、新、巾、紙、か、
 く、志、ば、り、く、さ、く、る、り、
 ▲す、け、ら、ん、天、井、板、又、ハ、粉、乃
 條、紙、め、た、ま、ま、の、綿、子、設
 の、灰、汁、を、く、ま、な、ま、と、洗、ふ、一
 ▲湯、風、呂、又、ハ、そ、ろ、ろ、の、換、し
 しろは、換、粉、減、さ、り、し、若、小
 て、新、り、て、洗、く、ら、ま、る、り、
 ▲ま、な、建、つ、た、り、の、新、紙、ま、ハ

土地形依軒要しよむら
里圃小法とらあまもも火
よけ悪くまは火災乃時冷
か死よみなり戸を破れも
屋小法くらけ悪く物も
小くられとや小法くら時
火除乃こぬれまがく同
くハ遊くまら又空地を
死所何たひハ古れ去る
換小くく小安んでくハ
火仗もめし紙書小くら

へ蓋乃戸口ふすれまら
けとらんハいんまと人のま
保ししん改用也るハ四重
合せと下くくうけとちあ
よる成のうましんごとくま
火災乃時ハ水一斗小方
ひ去ハ外端一弁乃はまら
少く水之絲小入めれと
右乃とらん改履ハあ
て戸口小かたをくうらひ
張るくたぐハとえ悟すハ

ハ栗木植込用の中

△石垣土臺とてた外へ

ハ石垣土臺乃時悪し

乃石垣土臺乃時悪し

土臺一面ふ成六寸

を退るる壁あふく之四寸

をわうかくはな一丈

ハ石三寸ふても壁の外へ

づらふ乃土持せふ四方

ふ平地一面あり延石

がく久空地乃お月

あふあまなてなりふ

△土石垣造り

才二槽又ハ肥松下

積込用の中

△白土ハ持込用の中

穀又ハ埋具乃ハ

石灰小粒ハ

よく撰

△炭

灰乙灰小

ハ酒成ナ加ケル

▲酒乃実相ふれ薄成り

出のくらねとらふ成む

とらふくらねとらふ成む

又いふとらふ成む

くらねとらふ成む

▲土屋の床の高くまじり

火災の特子過一ねそく

清道里成換して雲一

▲土屋ハ戸をのりしむ

一たすけ初より上通不任

まじり一毎まじり

▲同じくむろ一之沟小せ

一とらふも迎幸の二下沟成

一とらふ三下乃部合より

二下乃がねのい容易一む

二沟の時ハ鉄乃す移成厚

くまじり一志うの時ハつよこも

二沟ふかり一けけか物ハ

け道乃無成ふはく一む

▲とらふとらふ成む

ハ火の息ふとゆる軒の
火入きりり過不及火方
が

▲同窓の軒に中一かま
夏のことらもふ杉立坂

そまよふ壁あかき
志うら時ハ乾かよく杖湯ふ

曝してね壁下地持ふ
まこれ

▲やねの裏板ハ細板より
ね板も思ひかたけけ

まね板くさる

▲麻ハ砂煙形ハむ霞
まが

けろがハ傾道乃之
けまのおけが成うら

細く成通ハむう
大風ふ突いだり

がまね大風ふ吹出
換ねね

▲窓ハ土壁より
よ一潮ふく外

窓ハ土壁より
よ一潮ふく外

家ハ火ふちへバとりて是西

二重ふては直南よ

▲是出ハむ外弁にうー西北

小眼がー一西うー西北

ととふ社来不自由なるハ

西北小沼うぬうー

▲云産産なる向あがりの

方乃望ハ氣望をせとら

白出とては月夜接は

▲洞とあの上乃口の徑とす五

分あー極の也さ一うあ

洞月にはそ一貴月うー一貴

二百月かどなり

▲極ハ洞極は用也がー極

のありとのハ水乃あがり

くさくさう修理は其

は紐あり極は用也の附ハ内

の方へ極踏成をうーあ

あーくさうた

○器財

物^{もの}瓜^{うり}蚊^{ぶん}へ^へ日^に志^し成^{せい}盡^{じん}よ^よとい^いつ
 け^け詩^し文^{ぶん}言^{げん}れ^れ花^かや^やら^らあ^あら^ら後^ごの^のこ
 ぼ^ぼら^ら成^{せい}滅^{めつ}め^めら^らま^まて^てら^ら昔^こ人^{じん}の^の衆^{しゆ}
 なる^{なる}と^とし^しと^とと^とぐ^ぐて^て物^{もの}成^{せい}用^{よう}め^め
 の^の滅^{めつ}と^とし^しと^とぐ^ぐて^て急^{きゆう}物^{ぶつ}を^を月^{げつ}ふ
 用^{もち}ひ^ひて^てら^らの^の圓^{えん}成^{せい}達^{たつ}と^とら^らる^る
 の^のこ^こと^とら^らる^る成^{せい}月^{げつ}成^{せい}し^しん^{しん}こ^こと^とら^ら
 け^けん^{けん}ふ^ふふ^ふ久^{きう}と^とら^らか^から^ら式^{しき}に^に
 具^ぐ成^{せい}具^ぐ成^{せい}な^なら^ら成^{せい}の^のこ^こと^とら^らる^る
 三^{さん}て^てら^らの^の用^{もち}め^めに^に自^じ中^{ちゆう}を^を

(Faint bleed-through text from the reverse side)

さるが頼たのむるの園の致し連れは
志こころ致し喜よろこぶつとととももななししととももななしし
ととる洞ほら方かたおをおととんんたたととりりせせ
海うみ幸さいハハありありゆゆららとととと兼かね
好この乃のははままくく草くさおおととままりり人ひと
致さ郷きやう養やう應おうせせんんががああれれ念ねんおおとと
用もちふふかかああ致しままとと一いつ質しつ美み素そふ
一いつてて風かぜ雅みやびなるなるたたままんん一いつ強つよて
久くととううななりり異い風かぜ英えい麗れい致し好この
むむとと致したたららへへににほほくく家け法ぽう
致さ深ふかののままああららばば外ぐわい見けんとと

いなしく心こころああんん人ひとののこれこれも
ままをを足あしににたたりり可かしし海うみももままををあありり
命いのち一いつ半はんにに洞ほら方かたののむむあありりふふは
ううせせてて足あしににたたりりととももななししととももななししととももななしし
用もち乃の足あしににたたりり致しままとと一いつ質しつ美み素そふ
幸さい十分じふぶんななんんととももととももななししととももななしし
總くわん致し生せいのの念ねんおお乃の形かたちとと耳みみあ
耳みみ足あしあありりとともものの耳みみ足あし乃の致し
あありりあありりててややひひららとと強つよくくままるるくく
一いつかかががららへへ一いつととももななしし外ぐわい物ぶつお
心こころ致しままららととももななししととももななしし

無家新用

▲賓客乃のふとよけはん志
物ハ去るるりん家より去る
ふねりまきぐー云云を
家より去る定ちねりまき
一幸ふ用ひさるる家
人ふとねへく幸ふあ
へーひか

▲念物乃交換ド一ハ単々
浦より一交換ド一ハ交換
金と銀ハ交換ド一ハ交換
一の念物ハ一ハ交換

かくるる一なるるるるるるる

古人乃の法なり

▲塗物乃燻氣をや一挾紙

草はむらすむる塗るるる

物久しくなりて燻氣は

とと捨ざらん解るるるの法

汁めて洗ふる一但洗ふハ布

切紙用紙一洗ひる水氣乾

たると時漆或ハ紙紙ねるる

へば新なるるること

▲傘ハ雨中ふらして好干

居家秘用

十

揚乃急物（あき）とらりしうは栗草
の灰又ハ石灰（い）とそみくし
し、落家（おち）の早苗（さな）れ葉とそ
とヤリしげとらとひく扱（あ）もは
又砥（と）の粉（こな）或ハ古（ふる）れもめん
し、布（ぬの）或（ある）用（もち）へうし
▲庖下（あう）此（こ）牌（はい）乳（に）紙（し）去（さ）しはせ姜（しょう）
乃葉（は）ふてまらるる、○庖下（あう）
を蛤（か）みふとぐ、○何（なに）たり
大（おほ）みれこ、○柄（へ）の
とるれとらハ、駐（ち）れ皮（かわ）を膠（にか）の

ごく小（こ）祿（ろく）りてはぐ、
▲桶（おけ）乃（の）類（るい）小用（せう）家（か）本（ほん）は松（しょう）を
とと、榎（えん）を中（ちゆう）と、柁（せう）と
を次（つぎ）とらうの外（ほか）とらうと
な

▲銅（どう）乃（の）急物（あき）小酒（せう）とれ分（ぶん）乃
汁（じゅう）ありとれたぐ、之（これ）主（しゅ）なるは
銅（どう）氣（き）いで、葱（せい）、白（しろ）繻（しゅう）を銅
急（あき）れ内（うち）ふらると銅（どう）の毒（どく）死（し）
とせぐ、ぬるきととらうり香（かう）
りりて酒（さけ）れ味（あじ）を換（か）じく

居長必用一

冬たりのまきは毒氣いづつ

○酒を温むるは痰急候用

冬酒の味を換むるは毒

あり

△初道具は様々梅酢

よて洗ふなり

△塗油候急急号小鼻肉は油

新塗ざらに葉は葉よて洗

冬一すやうにさる

△掛物の窓朱此一五日おちよ

可床ふかけ並にぬぐりぬれご

とくまきは毒具は志ハれの

づつあまあふくよし是を

かけ志ひつとらふ○又ぬぐりぬ

常れ油まき油のこやくはよく

まき並にぬぐり換むること可

しやうくにまきて相ふへもの

小押もどろやうふすなり

○又掛物を夏月曝すは烈日

小毒にさしはぬるは毒具

を換むるは天氣よれた時家内小

かきとてさしはぬるは毒具

乃ごやくもまきばじーをすん

▲草笥挾箱乃類衣箱をい

ほくし志相捨りて新小作

そり左脂いでて衣箱を換

む初に菊糸を入金庫

菊糸に脂付てまらそのら

衣箱を入金庫

▲綿子の磨殻乃所を銅

鉄れ念を子うけハ繻垢よ

をわげん

▲蔘繪道具古くすびた

るハ綿子殻乃所水よとれ

まびり道具ふわりつけ

干乾して垢箱切ふてぬぐひ

ぬぐひ蔘絵換ては本他

小換目とほうんく蝶糸

を換

▲角貝類絵をすりわは法

象牙麻角類乃白骨

貝一切乃貝類小者野深小

て絵を少れをれ

一梅む記乃酢

小三四日漬^{つけ}まて好^よお出^でし
其^{その}本^{もと}に鹽^{しお}をばあ^まく^くん^んの^の死^し
係^{かかり}をれ^をと^とせ^せば^ば給^{たま}れ^れと^とう^うき^き
可^よこ^こと^とて^てえ^え事^{こと}あり

△銅^{どう}の^の金^{かね}物^{もの}也^{なり}或^{ある}は^はく^く酒^{しゆ}を^をら
を^をた^たた^たま^まに^にふ^ふわ^わる^るも^もれ^れ類^{るい}
取^と用^う也^{なり}其^{その}本^{もと}に^に赤^{せき}汁^{じゆ}を^をて^てり

本^{もと}に^に槌^{つち}を^を用^うふ

△猪^{ちげ}も^もて^て石^い服^{ふく}を^をれ^れ入^いる^る者^{もの}

猪^{ちげ}も^もて^て石^い服^{ふく}を^をれ^れ入^いる^る者^{もの}
其^{その}本^{もと}に^に包^{ふく}の^の類^{るい}あ^あら^らし^し
て^て水^{みづ}ふ^ふけ^けら^らら^ら代^たり^りあ^あけ

そ^その^の本^{もと}に^にあ^あら^らし^しる^る方^{かた}を^を下^{した}へ^へに^に
て^て水^{みづ}を^をた^たた^たま^まに^にて^て好^よお^おれ^れ
所^{ところ}あ^あら^らし^しめ^め入^いる^るも^もれ^れを^をれ^れ
如^{ごと}く^くも^もて^てら^ら方^{かた}に^にて^てら^ら
也^{なり}は^は水^{みづ}内^{うち}へ^へあ^あら^らし^し

△孟^{もう}は^は用^{もち}ら^ら時^{とき}は^はく^く酒^{しゆ}を^をら
て^てね^ねむ^むら^らし^し西^{せい}菊^{きく}を^をら^ら取^とり^り
乃^{すなは}ち^ち其^{その}本^{もと}に^にあ^あら^らし^しる^る方^{かた}に^に
本^{もと}に^に取^とり^りの^の方^{かた}に^にて^てら^ら

△本^{もと}に^に取^とり^りの^の方^{かた}に^にて^てら^ら
は^は信^{しん}濃^{のう}本^{もと}に^に取^とり^りの^の方^{かた}に^に
其^{その}本^{もと}に^にあ^あら^らし^しる^る方^{かた}に^に

ふふう紙を出一一書をこころけ
るくあまう時知事花等小
て降く付るなり

▲くす藤乃神より 新松脂まつぶ

あまの紙を胡麻ごま乃油に引

移るる紙を念うらめにちふ入は紙

炭すす大ふかけ一泡いし六くとし紙

あうり耐とこを火ふかけるなり

か死合をせおと海一て大ふけ

又ふ紙あうり耐水うらめをまふ紙

移らるる紙あり細にう紙あり

甲うり時なりして移りゆりせ

お水へ紙を入紙減うらめをえらる

一とるわし紙引わらうなり

一とる紙引わらう紙をえらる

あまの紙を今紙減うらめすべ

あまの紙を今紙減うらめすべ

あまの紙を今紙減うらめすべ

あまの紙を今紙減うらめすべ

▲尖れ根板ねいを揉香まうれ

中に入るはさるなり

▲春塗乃金細小脂出さる
ハ紙ふてを綿あてを沖紙付
火あてあがり温りある紙はて
わらひをさる外乃細少く
ハれちん

▲翅板又ハ蒸甑ふけ柳紙
用ゆる毒なくしてより

▲檜紙金細小用ゆる尾
外より出る紙と云ふ
一種栢木紙檜紙
用ゆるあり脂いごあり

▲木急象天麻角あてはく
可きつきの紙足がくまは棕乃
葉紙用ゆる木賊を用
ゆるハ物甲てよくはる
紙紙

▲根あてはくさる着紙紙
ゆるものれ紙ハ臭気ありて
あり初ふ熱湯あて紙ハ
ハ臭気さる

▲擦とよるは棕核滑の本
紙用ゆる

日本居家秘用卷二目錄

○衣服

此部は衣服用ひやう
 ひやう老々小思の衣服の
 得たる物にやう縮布の
 やうなるにやうちりやう麻子
 のりやうぬい紋の取やう紋
 付糸小紋の付やうとるる衣
 服類ふきあつことと委細ふ
 たらぬ

○飲食

此部は餅乃おびき片
 やい炙肉久しくたくハヤ
 くと炙くと乾鮭小豆ホ

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

早く者火やう漬物のほろ
やう湯呑茶の法類類た
くハハやう喜昆布の志やう
奥肉のりやうやう一切食物
小豆りやうやう食物小豆やう
是物の半やうやうハハハ
まろやう

○衣服

衣服の字は衣と衣に候は
用は候ふ不足なれは候は
行へ候はるる候はるる候は
とこは月どらとこは月どら
相趣とこは月どらとこは月どら
一又又又又又又又又又又
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
倍おとし人の好しあふやう
うの人乃乃乃乃乃乃乃乃

書家必用一

九

身小進一思あまつらあまふあまことあま

▲凡日中所著衣服夜卧ふか必吏則不裁む蚤あ異ま不昂あ

敝や壞ま苟能如是則不但い威儀可法又可不貴衣服い

晏子一狐裘三十年雖あ意在以儉化俗亦其愛あ

惜在道也此最飾身之あ要勿忽あ

▲樟腦ハよくあ細あ衣あ子あ穿あ衣あ

穀あ衣あ身あ一あのあ終あとあんあ衣あ衣あ乃あ

細あ衣あ身あ一あのあ終あとあんあ衣あ衣あ乃あ

▲頭巾あ不あろあ一あのあ朝あ衣あ洗あ不あ

油あとあてあ落あさあんあハあ綿あ子あ敲あ

のあ汗あ汁あ少あくあ洗あさあんあハあ綿あ子あ敲あ

▲老人乃あ紅あ着あハあ袖あ衣あ用あ也あ

乃、縮込用ひたり、
甚、益ねり、縮込類ハ、
皮、皮膚、
ふ、
▲老、人ハ、
志、
以、
残、
至、
或、

▲擲、
乃、
の、
▲定、
の、
中、
一、
甚、
▲袖、
ね、
白、
▲葛、

▲葛、
白、
▲葛、
白、

葛、
白、

小志はうらうらハ水垢うくこと
うらをにたゞこまは新ある
がふくく葛布の帯の袴と
せがき志づく用ひくとた
乃ごとくせまは久しく用
ひがき

▲布ハ細針糸白より出る後
と糸と針おひき上り高
度成らうと布とせらるなり
▲洗白衣法 葛蒲紙曝乾
一糸と糸一水小のせらる

衣服は清きよく好洗之
垢紙たのづき程よく白くなる
と垢糸必用小物なり

▲臭灯油の衣服小付くハ
標糸紙ぬきとせしけ洗
る

▲槐花乃衣服小付くハ酸
少せ洗ハハさる

▲衣服小油乃付くハ滑乙
とる灰等分小合せけがま
たう下乃上下小並一夜押

取のりくまきぐしうのち
たらし押へおつる

○又大根の志ぼり汁液もこ
けまきとぐくしうて熱湯ふ
て洗ふが

○又水一升ふ鹽五分入こ
しきゆして洗ふが

○空水石磨く粉ゆし二兩
又滑石一兩白礬一兩右い
づも粉ゆし洗ふこま
まき良久くして洗ふ

介くろとれー 車林廣記

▲衣服小黒雲の粉ゆし洗ふ
よと下ふ紙紙まき水紙うけ
て搦枝乃ゆふて洗はる
く紙ふくはる

▲煙草の脂衣服ふゆふ
羊夏乃ち炭汁ゆき洗ふ

○又煙草の茎紙はる
くの灰汁ゆき洗ふ○又西
瓜仁紙ゆき洗ふ

▲衣服小黒乃粉ゆし白粉

飯と付洗うる。又味増

汁と洗ふとよ。

▲一袋ト茶衣服ふと洗ふ

豆ハ豆腐飯一寸毎ぐ小切あ

つと五分程あして水とよ

く煮たさくの熱うけ洗う

とよとよとよとよとよとよ

▲背令の衣服ふ付るハ巾

くこん洗うて洗う

汁と洗う

▲衣服小類の付るハ鱧魚

ぬりぬり洗うハねつ

▲洗米の衣服ふ付るハ酢

とて煮まねたつ

▲かやまれ衣類ふ付るハ

酢洗熱くして洗う

▲屋漏水の衣服ふ洗付るハ

塩水と洗う

▲衣服の紅灰ぬるハ早稲

草を入一灰汁とて洗う

▲木と洗う布帛ハ綿子

穀乃一灰汁とて洗ハ染色

ぬくろまろまるとも布帛の
水よかくなる

▲衣服の水の類をこき洗
たらん益蘿蔔のまげうけを
刷毛少くこけバ毛もろま
うせ保

▲衣乃物衣類洗法
洗うんてろの汚らふ衣
洗ひたしつて垢汁おぼ
洗うがー洗ひたしつて保
灰汁おぼせぬ洗うる保
保

▲絹布洗法 二重か
絹日此絹伸の類ハ葛と

粘と筆かあ〜と刷毛
あ〜ひ〜〜〜〜子細
一ふ小粘一ふ〜白砂

糖五分海苔五分入ると
ぬく布〜〜刷毛あ〜

ひ〜〜縮細ハ花火が減
〜〜熱五分入衣のこ〜
〜〜と

▲絹布洗法 絹乃

ほやぐりハ白胡麻五分り
て布のくくくくくの汁を粘
致して引がーほやいで
三川よりとあり

▲後の長をてきくん級を成
ハ櫻花ふてとはひさりて
深きーは時ハ水ハ深き立
まがくくーは深きりー終の
奥まくわほん油よう湯ふ
ほもくは深ハ終乃色さまい
おらりん

▲ハ丈綿ちりやり 粘り真
綿百五十月後細く糸ふ引く
是は一反乃糸とん池立の糸
ハかせふわ糸海昔織けふ糸
粘りが加へて引るー綿細
乃糸ハ思くもまきのごし
くもて機押ふらくるー緯
乃糸ハ粘り分たむようと
かくらわら地乃糸ハ好こ
よもからくーよもハ十よ
こすり十五いまふもともりん

書
月
一
世

八丈より織出せる山まの
織糸くまの巾甚は

▲縫級張糸くまの時ハ吸物
撥ふ下る級乃付より下飯

引たる裏乃方級撥ちくと
さそ切表乃方より毛撥ふ

て撥ちるなり 地換豆尺
て卑くと係

▲麻子深乃新よは撥れ
やうハ釜小湯張たさそを
方より引たる揚敷ふは

のまゆ
▲級取ゆるハ横撥ふ上給
張書とれ撥ちる跡いり

何るれいやまねとあなる豊級
消やうハ撥ちれち大茶飯と

うのよおねはハひううせり
▲竈乃灰むゆうたる灰灰

汁ふよまこくお招張撥ち
層さる垢さくくたつ

▲衣服ハたれく藍漂す
くろん益おね

唐書卷之九
九

▲柳如多食うらて菌毒と
しきまばやりうなり性涼を
れそのなり小児に附し
てよらう

▲草の類 糠糠成とて甘酒の
糠成まじりてをよらう

○飲食

▲食物ハ飢成之を此身成其
小く早まらうとてよらう
常小食成好じぬなり
其食成好じハ志は成其
了れらる家法成りや病
成せどもよく害れぬ
に脈乃欬小お月海ハ志士
の死く下なる古入乃咬得
葉根別百事可做とやう
一と人藤食ふ母トて

成りし時ハ忘れしに
美の善行とてかゝる
と云ふ男まゝとて
ておとよなれなり

▲**叔解法** 解法はくろく

くは福小海成り解法
入よく重成りておとよ
いつまごともひは

○又おれ解ふまゝ
常乃解茶よりハ一日
漬まきり又塩成茶

くひわげんし 湯まはす
してまゝ

▲**魚肉貝類** 融湯乃法 融

酒一盃は塩さ盃成加
て煮かき 加料乃丸粒

十四五入魚肉のひ貝類
乃生なる紙より紙とふ

是衣乃融ふ海成り
なると六月終い風味

融もふとよ
常小用いおとよ

右のぶくとくたくりも用お
月一

▲甘菜類酢漬の法 何おて

と漬ゆるれ甘菜類乃類は

よく洗ひ氷を融かして酢を

塩でゆらせ茶葉茶葉一盃小

ハ右のこくと胡椒の九粒十

四五入く漬ゆるハいつまでと

おひやくせむ

▲炙魚肉法 胡椒粉を

一肉のこくとよく焼く

りぐつちがまは 事林廣記

▲豆腐ハ夏月換一安一

豆は焼とれいよ乃新又

根の新法用ゆも火を氣つ

よく通る也換むる事ねと

一性将れ新法おて煮た

ほハたらく換た

▲串焼法もよく煮る法 茶の

汁よ並羅葡萄は少加へて煮

もしたやくやうやくふたなり

▲小豆は煮るも茶葉乃を然

事林廣記

入る煮るるがし又海粉紙
サワのこことよー

▲草の葉紙者火のるは苗紙葡萄
紙入るづるふ煙ハやりづるふお
風又味増汁ふと者火のるこ
やうらうふたも

▲串海粉紙者火のるふふふふ紙
細ふ切溜乃中へ入湯煮火止
もいれをやくやりづるふたも
又焚火灰乃中へ入るるを
よー

▲三伏日合醬與麴不生虫

▲酢乃中へ炒湯紙入るる白
衣紙生る

▲砂糖紙紙るふ卵紙下はぶ

一白の紙入るる卵ふ砂糖
乃麴煮くは紙るる海蜜
紙紙るをも回一

▲紙紙焼く所煮火のるふ

酒紙少くうらう草紙火
氣紙少く通すは紙かくる

こくも紙紙は紙紙紙とる

酒氣を結らば

▲鶏卵たまごと山椒さんしやうをいじり

ちやまうて一匙ひとし分ぶんを

卵たまごをくくると

▲酒さけを温あたためし火か乃のち入いれ

茶ちやはよく吹ふき消けす

布ふはよく折ひく

▲海うみ蘊いん皮ひ財さい家け法ぽう 海うみ蘊いん皮ひ

温あたためし火か乃のち入いれ

蘊いん一ひと升しやう水みづを

能よく折ひく

生なまる用もちの中なかの火か乃のち入いれ

け塩しほを

▲昆こん布ふ 羽う織お成なりて

布ふ織お成なりて

海うみ蘊いん皮ひ財さい家け法ぽう

▲鯉こい乃のち入いれ

火か乃のち入いれ

火か乃のち入いれ

火か乃のち入いれ

火か乃のち入いれ

火か乃のち入いれ

火か乃のち入いれ

乃ち茶の類を入水して茶碗
紙少くお目あがりかくの
ごとくすまごばごねば又月ふ
そりも紙すりのまよー

▲芥子紙はしるしは先物折

少くしりて茶碗の類小入

内物不細紙あうのふ茶

紙少ー入志のくまき茶碗

とくみいり地ふふせを

らー●粉芥子紙折るは

茶碗の類小入水して茶碗
紙茶碗紙入を志のくーて

茶碗とくまき茶碗

味汁乃塩かたふハ紙を

袋小入汁の中へ掛け者出

せば何まくなり又樽栗の粉

紙入塩とよー

▲芥子紙糟へ茶壺の中へ

蟬退紙入もくは先毒といへ

とくまき茶碗

西学六要

大豆腐紙はくろ時らやまうて
苜蓿葡萄酒はくろは二豆煮肉
となすらば 同上

五月白米乃中へ梅乃葉
紙入まが虫成せざん小豆
小角二豆大豆は鉄乃物紙
入まら

ぬら味乃中へ南燭の葉
紙入まが虫成せざん
塩魚乃塩紙出まら八糖
濃紙少水小加まら

く塩いづら紙乃紙時八糖の
葉紙入海まら一糖を物も
同

とらる葉類浸物みす
おハる紙汁紙かろまら
志ハるもく一紙一用小の
もまらひらる

干かづら割紙布紙煮る
小水小久く清まら味ぬ
るも一紙ひらるのぬ
まらるらよ

▲海苔よりし灰汁をうけしは漬物

その旨みふく漬物にまじり

おひたしと漬物に用ひ

よくちぎてよ

▲瓜瓠糟漬おもしろ小豆菜

に灰汁入る漬物に五年

不とれ味換で

▲餅皮は時餅菓菓子

ハ氷砂糖一両のはとろり

てお水乃中へ入まじりかび

た

▲温純又ハ菓子細灰湯煮す

小向大豆灰汁入る久

のびり高直切り紅豆灰

へ

▲香菓乃方 茴香 山椒

薑葱仁 各四片を炒て 大倉菓子

十五分を ねいづもこと粉少一兩

ふりしを袋入振出して

茶う

○又方 糯米 とうもろこしよく洗ひ

陳皮 山椒 各二片

肉桂 少堅

○湯香 栗入法

飯のこげ

ゆき火ふかけ 煮煮すうりこ

山椒の粉

白胡麻 粉より

衣分 量好

ふき なが

▲葡萄 煎子 紙 糠 浸す

ゆいたとへに 汁 持 一 煮

はくろ 糠 乃 中 二 升 紙 摺

つり いろ 紙 まで 浸

かど ね 拵

▲こ ぎ

煮 煮 煮

張 帯 の こ と 湯 煮

軒 乃 湯 小 法

湯 紙 多 巾

紙 一 一 一

○又 煮 煮 切 紙 帯 の こ と

ち せ っ っ っ 小 入 底 乃 湯 紙 桶

小 の せ せ せ せ 煮 煮 煮 煮

煮 煮 煮 煮 煮 煮 煮 煮

か け 上 上 上 上 上 上 上 上

桶 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙 紙

一 かく 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

桶おけ小沸こわきうたう湯ゆ氣け少すくくじ
せく味あじと幸あはれ乃すなはこくじ
よりよらんめらくくしてす

▲奈良漬ならづけ 越こ氣け成なりころふ

とくあうぐ成なりさう湯ゆ成なりた
ぶせごめと湯ゆ成なりと成なり水みづ
氣け成なりさうて湯ゆ成なり成なり糟か成なりも
アアく成なり成なりさうむやてはく
がけ法はふ是こ一いち

▲西あ水ま成なり清せい水すいとさう法はふこ

と成なり水みづかたにふあそは成なり成なりよく

沸わ一いちせゆ一いちを冷ひやらふさう

てうの派は障しょう成なりさうさうじ

こま成なり成なり者ものさうばう成なり水みづと成なり成なり

▲越こ水すい法はふ 水みづ成なりいさ成なり成なり成なり

湯ゆとくよく沸わ一いち白しろ成なり成なり成なり

乃すなは中ちゆうへ成なり成なりむけ入いす成なり成なり

かあふ下したふ古こ砂すなりりの成なり水みづ成なり成なり

乃すなはり成なり成なり成なり

○又また法はふ白しろ成なり成なり乃すなは中ちゆうふ成なり

目め乃すなは成なり成なり成なり成なり成なり

さう成なり成なり成なり成なり成なり

大塚新編

悪しにたまそ水ハ輝小ニナ

と遊に彼ととん

▲解ふ用也うまはいつこり

解糸をそし用也うまとい

どと東部大坂へある糸の

中ゆくハ河内乃清より也

才ふよりとん之余もは

播州明石佐藤江引より

四つ張よりとん



